

○管理区評価調書

1 森林の整備に関する事項

(1) 森林の整備

ア 森林資源の状況

区分		単位	計画期首	計画期末	増減	
人工林	育成単層林	面積	ha	4,213	3,979	-234
		蓄積	千m3	812	814	2
	育成複層林	面積	ha	493	730	237
		蓄積	千m3	81	144	63
	計	面積	ha	4,706	4,709	3
		蓄積	千m3	893	958	65
天然林	天然生林	面積	ha	9,554	9,652	98
		蓄積	千m3	1,792	1,916	124
その他	未立木地等	面積	ha	102	1	-101
		蓄積	千m3	0	0	0
計	面積	ha	14,362	14,362	0	
	蓄積	千m3	2,685	2,874	189	

※「計画期首」は前期計画の期首、「計画期末」は前期計画の期末（以下同じ）。

イ 計画量の実行状況

区分		単位	計画 (A)	実績 (B)	実行率 (B)/(A) %	
伐採	人工林	主伐	千m3	32.0	34.1	107
		間伐	千m3	65.5	67.2	103
		計	千m3	97.5	101.3	104
	天然林	主伐	千m3	0.0	0.0	
		間伐	千m3	2.5	3.3	132
		計	千m3	2.5	3.3	132
	計	主伐	千m3	32.0	34.1	107
		間伐	千m3	68.0	70.5	104
		計	千m3	100.0	104.6	105
造林	人工林	人工造林	ha	295	305	103
		天然更新	ha	0	0	
		計	ha	295	305	103
	天然林	人工造林	ha	0	0	
		天然更新	ha	0	0	
		計	ha	0	0	
	計	人工造林	ha	295	305	103
		天然更新	ha	0	0	
		計	ha	295	305	103
路網 (開設)	林業専用道	km	0.0	0.9		
	森林作業道	km	0.0	0.0		
	計	km	0.0	0.9		

※「計画」は前期計画（以下同じ）の計画量である。

ウ 評価指標

(ア) 伐採材積の実行率 (千m³、%)

計画	実績	実行率
100	105	104.6

※伐採実績総量の計画総量に対する割合

(イ) 間伐面積の実行率 (ha、%)

計画	実績	実行率
1,020	952	93

※計画期間における間伐実績総量の計画総量に対する割合

(ウ) 路網密度 (m/ha)

計画期首	計画期末	増減
10.7	10.7	0

※計画期首と計画期末における路網密度

(エ) 人天別森林蓄積 (m³/ha)

区分	計画期首	計画期末	増減
人工林	190	203	13
天然林	188	199	11
平均	187	200	13

※人工林、天然林別のha当たり蓄積

(オ) 育成複層林など多様な森林に誘導する人工林面積 (ha)

区分	計画期首	計画期末	増減
育成単層林	1,136	1,150	14
育成複層林	493	730	237
計	1,629	1,880	251

※5ha以下の単層林施業と複層林施業の合計実施面積

エ 課題 (評価指標の分析等)

主伐対象林分が増加しているため、高齢化による材の腐朽と木材利用価値の低下が懸念される。

オ 今後の対応方向

高齢級人工林の次世代更新については、緩傾斜地など地形条件の良好な箇所は積極的に再生林を行うほか、林分状況に応じて間伐も実施する。また、人工林に隣接している天然林についても施業を併せて検討するなど、効率的な施業と低コスト化に努める。

(2) 森林の保全

ア 取組内容

風雨による山腹崩壊防止のため法枠工や緑化の実施と、健全な林分の育成のため本数調整伐を実施し林床植生の回復を図る。またエゾシカによる農林業被害低減に向け、林道除雪による一般狩猟者の捕獲環境の整備と管理型捕獲 (モバイルカリング) 及び大型囲いワナによる生体捕獲を実施。

イ 評価指標

(ア) エゾシカ森林被害実面積 (ha)

前計画	現計画	増減
231.13	13.39	-217.74

※エゾシカによる食害等の森林被害実面積

「前計画」は前計画期間の前期、「今計画」は現計画期間の前期である（以下同じ）。

ウ 課題（評価指標の分析等）

モニタリング調査の継続により、エゾシカの出現エリア・頻度・頭数を把握するほか、関係機関と連携したデータ分析、捕獲対策の検討が必要。

エ 今後の対応方向

本数調整伐や斜面の法枠工や緑化等により、健全な林分の育成と風雨による山腹崩壊を防ぐ。また、エゾシカ対策については、引き続き大型囲いワナによる生体捕獲に取り組み、関係機関と連携を図りながら森林被害の低減に努める。希少野生動植物の保護についてはNPO法人など専門家からの助言を受けながら自然環境に配慮した施業を行う。

(3) 林産物の供給

ア 取組内容

地域との連携により地材地消に取り組むとともに、素材生産業者等との協定締結により木材の計画的かつ安定的に供給。

イ 評価指標

(ア) 協定販売件数（延べ） (件)

前計画	現計画	増減
4	5	1

※協定販売による契約件数

ウ 課題（評価指標の分析等）

間伐対象林分（6～10齢級）の減少に対応した木材の安定供給体制の構築が必要。

エ 今後の対応方向

積極的かつ計画的な主伐・再生林に加え、高齢級人工林間伐による間伐量の確保により、木材の安定供給に努める。また、隣接している天然林についても施業（間伐）を検討し事業の集約化と低コスト化を図る。

(4) 地域と連携した森林施業等

ア 取組内容

林道除雪による狩猟者の捕獲環境整備と管理型捕獲（モバイルカリング）及び大型囲いワナによる生体捕獲の実施。

イ 評価指標

(ア) 共同施業等の件数 (件)

前計画	現計画	増減
0	0	0

※共同施業、共同出荷、路網等の共同利用の実施件数

ウ 課題（評価指標の分析等）

地域の森林づくりを一体的に進めるため、共同施業実施に向けた国、自治体との継続した情報発信・共有が必要。

エ 今後の対応方向

管理型捕獲（モバイルカリング）から大型囲いワナによる生体捕獲へ移行し、関係機関と連携した捕獲効率の向上に取り組む。また、会議等、各種機会を通じて共同施業に係る情報提供と地域ニーズの把握に努め地域の一体的な森林づくりに取り組む。

(5) 森林施業の低コスト化

ア 取組内容

機械作業の導入を前提とした人工林の造成や列状間伐の推進及びコンテナ苗植栽の推進。

イ 評価指標

(ア) 機械作業を前提とした人工林の造成面積（ha）

前計画	現計画	増減
14	72	58

※機械作業を前提とした人工林の造成面積

ウ 課題（評価指標の分析等）

主伐期を迎えたトドマツ人工林の増加により、機械作業の推進とともに計画的な次世代更新と天然林施業を含めた集約的な施業について検討が必要。

エ 今後の対応方向

高齢化に伴う材の腐朽から利用価値の低下が懸念されるため、高齢級人工林の積極的な主伐・再造林が必要であるが、引き続き機械作業の導入を前提とした効率的かつ計画的な人工林の造成により低コスト化を図る。また、現地の状況を見極めながらコンテナ苗植栽にも取り組む。
人工林の主・間伐と併せて、隣接している天然林の施業（間伐）により集約化と低コスト化を図るとともに木材の安定供給に取り組む。

(6) 林業事業体等の育成

ア 取組内容

素材生産者等の育成のため、長期的かつ弾力的な事業発注による事業体の経営安定化。

イ 評価指標

(ア) 長期安定供給販売量の割合（量：m3、割合：%）

区分	計画期首	計画期末	増減
総販売量	21,503	24,600	3,097
長期安定供給販売量	0	0	0
割合	0	0	

※立木販売総量に対する長期安定供給販売量の割合

ウ 課題（評価指標の分析等）

長期的かつ弾力的な事業発注により林業事業体の経営安定化を図るため、長期安定供給販売の実施に向けた検討が必要。

エ 今後の対応方向

地域の森林整備の担い手となる林業事業体の育成のため、長期安定供給販売や協定販売の実施により林業事業体の経営安定化と木材の安定供給を目指す。

2 森林の管理に関する事項

(1) 取組内容

道有林を適正に管理するため、森林への不法投棄等の対策として監視カメラを設置（2カ所）。また、各入林箱に林野火災予防、ヒグマ対策等のチラシの配置により入林者への啓発・注意喚起を実施。
 保安林に係る事項については、森林の施業・管理の用に供する作業道等の作業許可など、法的制限を踏まえた適正な管理を実施。
 その他、釧路管理区内の巨樹等のマップの整備を行い、見どころの紹介や林内の安全で快適な散策のための草刈り、掛かり木等の処理などにより入林者の利便性向上に努めている。

(2) 評価指標

ア 林野火災の発生件数 (件)

前計画	現計画	増減
0	0	0

※林野火災の発生件数

(3) 課題（評価指標の分析等）

林野火災予防に係る啓発活動の徹底が、林野火災発生を防止していると考えられる。ヒグマによる人身事故が発生したことから、さらなるヒグマの注意喚起に取り組むことが必要。

(4) 今後の対応方向

森林の適正な管理のため、ポスター掲示やチラシ等を活用するなど、より一層入林者の火災予防意識の向上やヒグマの注意喚起に努めるとともに、森林管理巡視業務を活用した入林者への適切な指導を進める。

3 森林の活用に関する事項

(1) 取組内容

道民生活に必要な不可欠である貸付地等については、借受者に対し、適切な事務指導や現場管理に係る助言に努めた。
 道有林のフィールド活用として、厚岸樹木園整備を老人クラブ連合会と共同で行ったほか、小学校の総合学習時に水源涵養機能についての学習や、教育委員会と連携し、教員を対象とした造材現場の見学等を実施した。
 また、ネイパル厚岸や町、漁協女性部、NPO法人が実施する森林・林業体験のフィールドとして提供したほか、道有林を四季折々の草花を楽しむ観光地としても活用した。

(2) 評価指標

ア 入林者数 (人)

区分	前計画	現計画	増減
レクリエーション、調査・測量等	9,168	5,943	-3,225
狩猟	507	367	-140

※計画期間における道有林野への入林者数

イ 木育活動参加人数 (人)

前計画	現計画	増減
480	256	-224

※道有林野をフィールドとした木育活動等の参加人数

(3) 課題（評価指標の分析等）

評価指標に掲げるレクリエーション、調査・測量等及び狩猟時における入林者数や木育活動への参加者数の減少が顕著である。
引き続き、新型コロナウイルス感染症のまん延が参加者などの減に大きく影響していると考えられる。

(4) 今後の対応方向

山林散策などの「密」を回避できるレクリエーションの推進のため、当管理区内の見どころの積極的な発信や、様々な機会に幅広く啓発していくことが必要。
その他、コロナ渦における各指標の実施内容について検討が必要。

4 道民との合意形成

(1) 道民意見の把握

ア 目的

地域住民の理解を得て合理的な森林の整備・管理を行うため、事業の計画や実績、経過などを分かりやすく説明し、次の基本計画や整備管理計画に反映させる。

イ 調査方法

町、漁業協同組合、NPO法人に対し、次期道有林基本計画並びに釧路管理区評価に係る資料についての意見とアンケートの提出を依頼。

ウ 評価指数

(ア) 道有林の管理運営に対する満足度 (%)

区分	満足	まあ満足	どちらでもない	少し不満	不満	計
回答数	1	3	8	2		14
割合	7%	21%	57%	14%	0%	100

※地域住民へのアンケート調査結果より

エ 課題（評価指標の分析等）

管理区評価に係る現地説明会については開催中止としたため、次期道有林基本計画並びに釧路管理区整備管理計画の管理区評価に対する意見の提出を関係団体等に依頼。併せて道民意向調査のアンケートを実施。

アンケート結果では道有林の存在は認知されているものの、森林室が整備・管理をしていることへの認知度は約半分にとどまっている。また、計画に対する住民意見の反映度合いについては半分以上が「わからない」としていることから、今後の取組方法（地域への説明、PRなど）については検討が必要。

(2) 管理区評価現地説明会の開催

開催年月日	主な内容	参加人数	主な参加者
開催中止	書面開催（次期道有林基本計画の見直し、釧路管理区評価について）	7機関	町、漁協、NPO法人

5 総括（森林の整備・管理に関する課題と今後の方向性）

【森林の整備に関する事項】

人工林施業における高齢級人工林（11齢級以上）の整備については計画的かつ積極的な次世代更新を行い、育成途上における人工林及び天然林（植込林分）は適切な間伐により、健全な林分の育成と木材の安定供給に努める。そのほか、事業箇所の集約化や機械作業の推進により効率的な森林施業と低コスト化に努める。

また、治山事業における法枠工や緑化などによる山腹崩壊防止と、本数調整伐による林床植生の回復により健全な林分の育成に努め保安林機能の維持・向上を目指す。

病虫獣害（野ネズミ、エゾシカ等）に対しては、引き続き効率的な防除を行うほか、関係機関と連携したエゾシカ捕獲効率の向上に向けた取り組みを行い森林被害の軽減に努める。

林業事業体の育成については、長期的かつ弾力的に事業を発注できる仕組みの導入や素材生産者等との協定締結などにより、林業事業体の経営安定化と木材の安定供給に努める。

【森林の管理に関する事項】

森林の適正な管理のため、ポスター掲示やチラシ等の活用により入林者の火災予防意識の向上やヒグマの注意喚起に努めるほか、森林管理巡視業務を活用した入林者への適切な指導を進める。

また、森林の整備・管理においては法的制限を踏まえた適正な管理により保安林機能の維持・向上に努める。

【森林の活用に関する事項】

当管理区内の見どころを各種機会において積極的に発信していくとともに、地域住民や関係機関と連携した樹木園整備や総合学習などにより道有林のフィールド活用に取り組む。